

スキニングを静注後40～60分で開始すればよいことがわかったが、 $^{85}\text{Sr}$  に比して血中 back ground が高い。骨肉腫、肺癌、乳癌、前立腺癌等の骨転移発見に有益であったので報告する。

#### 18. 骨髓炎のシンチスキニング (第2報)

##### 治療前後の所見について

慈恵大学 整形外科 大森 薫雄 伊丹 康人  
宮脇 晴夫

骨膜骨髓炎で経過観察中の患者 70名に  $^{85}\text{Sr}$  シンチスキニングをおこない、スキャン所見と臨床所見を比較検討した結果、骨髓炎の病勢と  $^{85}\text{Sr}$  のとりこみの程度とがよく一致し、病勢の判定に有力な検査法であることを第8回の本総会で発表した。

その後症例をかさね 113例に達したので、これらの症例について、さらにスキャン所見と臨床所見を比較検討するとともに、先にスキャンをおこなった症例に、化学療法をおこなって経過を観察するとともに、再度  $^{85}\text{Sr}$  を投与して治療前後のスキャンについても比較検討した。その結果、骨髓炎の治療効果の判定や、治療方針の決定にはレ線像、赤沈値、その他臨床所見だけでは充分でなく、必ずシンチスキニングをおこなうべきであることを痛感した。

#### 19. 顎領域への $\text{Sr-87m}$ 骨スキャンの応用

日本歯科大学 放射線科

○関 孝和 前多 一雄 古本 啓一

骨疾患診断には X線診断による方法が多く用いられているが、放射性同位元素による方法は X線写真上に現われる以前の初期の疾患の発見にも有効であるといわれている。

骨疾患診断に用いられる RI には多くの核種があるが、 $\text{Sr-85}$  による方法が一般的である。しかし、 $\text{Sr-85}$  は半減期も長く、投与量が少いことから良好なシンチグラムをえることは困難である。このため、われわれは  $\text{Sr-87m}$  を使用した。 $\text{Sr-87m}$  は半減期が短く、投与量も 3mCi 程度と多量に投与できることから良好なシンチグラム像をえることができ、かつ、反復使用できる有利な点を持っている。われわれは、腫瘍、骨折などの例について  $\text{Sr-87m}$  を用い、顎領域の良好なシンチスキニング像をえているが、今回はこの臨床的評価について報告し、また顎領域、特に上顎における正常部位の陽画像のパターンについても付加する。なお  $\text{Sr-87m}$  による骨スキャン像は、増殖性、破壊性部位共に陽画であった。